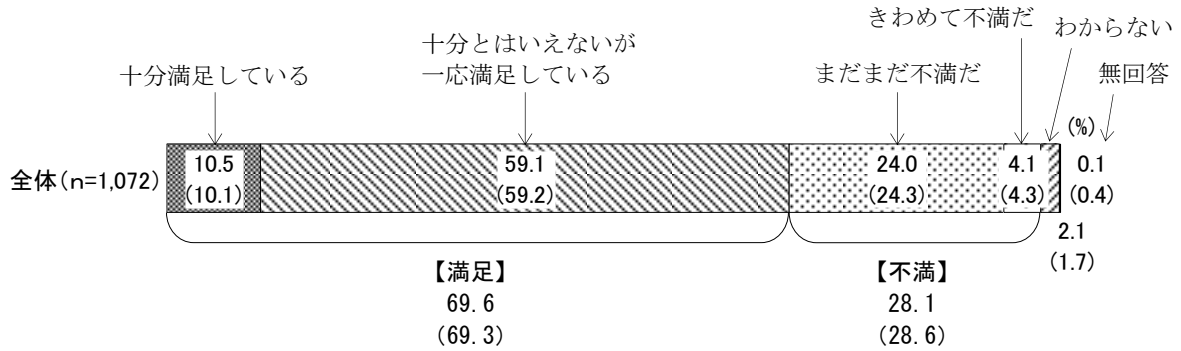


I 生活意識

1. 暮らし向きへの満足度

—【満足】が約7割—

問1 あなたは、現在の暮らし向きについてどの程度満足していますか。次の中から、一番近いものを1つだけ選んでください。



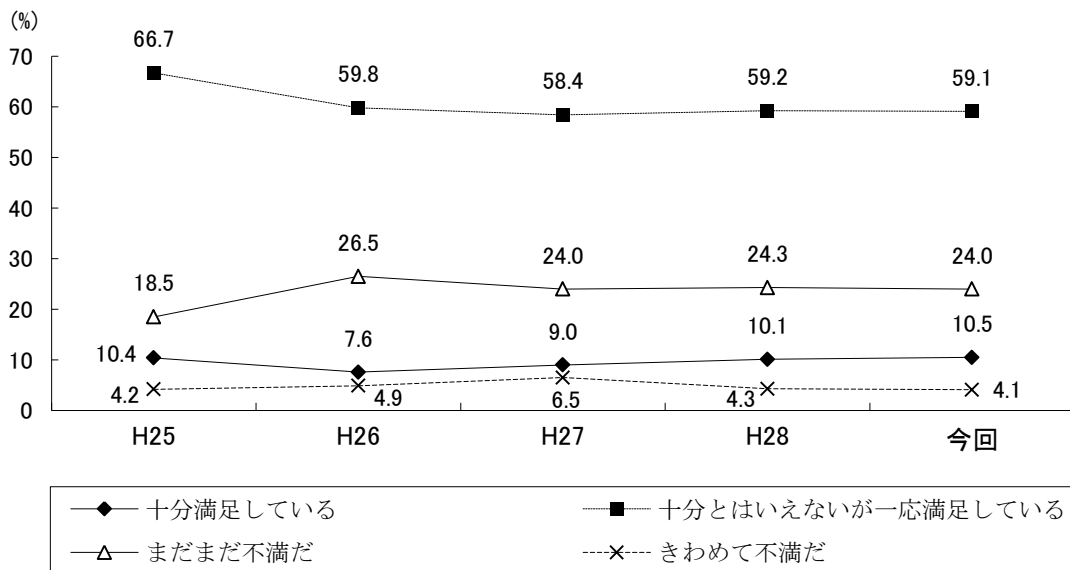
※()内の数値は、平成28年の調査結果

暮らし向きへの満足度としては、「十分満足している」(10.5%)と「十分とはいえないが一応満足している」(59.1%)を合わせた【満足】(69.6%)が約7割となっている。一方、「まだまだ不満だ」(24.0%)と「きわめて不満だ」(4.1%)を合わせた【不満】(28.1%)は約3割となっている。

—特に大きな増減はない—

前回調査(昨年)と比べると、特に大きな差はみられない。

図I 1-1 暮らし向きへの満足度(時系列)



－鹿行で【満足】が6割台前半－

地域別でみると，【満足】は，鹿行（62.4%）で6割台前半と低くなっている。

－女性で【満足】が男性よりも約6ポイント高い－

性別でみると，【満足】は，女性（72.5%）が男性（66.6%）よりも約6ポイント高くなっている。

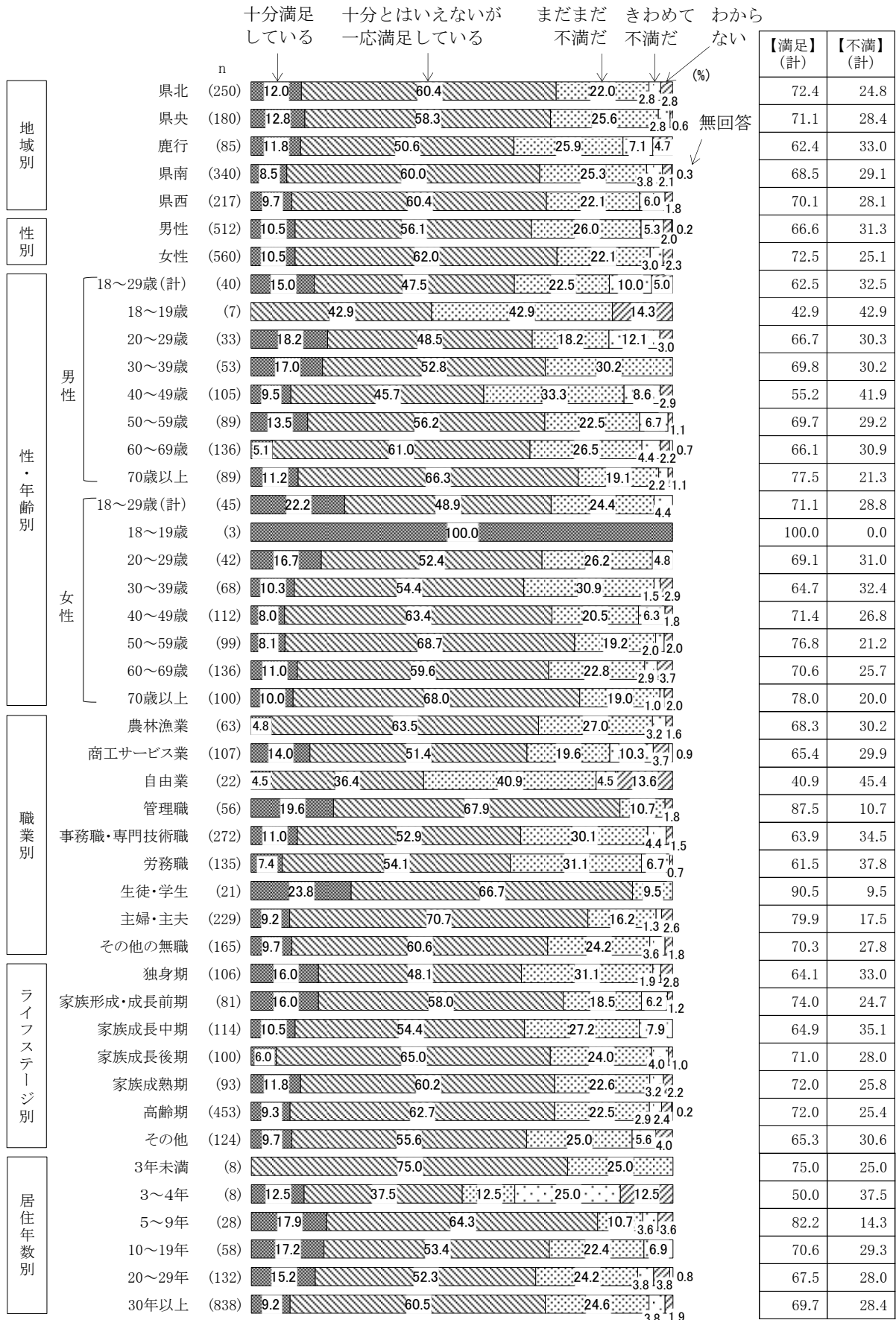
－男性の70歳以上，女性の50代，70歳以上で【満足】が7割台後半－

性・年齢別でみると，【満足】は，男性の70歳以上（77.5%），女性の50代（76.8%），70歳以上（78.0%）で7割台後半と高くなっている。

－管理職で【満足】が約9割－

職業別でみると，【満足】は，管理職（87.5%）で約9割と高く，次いで，主婦・主夫（79.9%）で約8割と高くなっている。

図 I 1-2 暮らし向きの満足度
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)



(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。

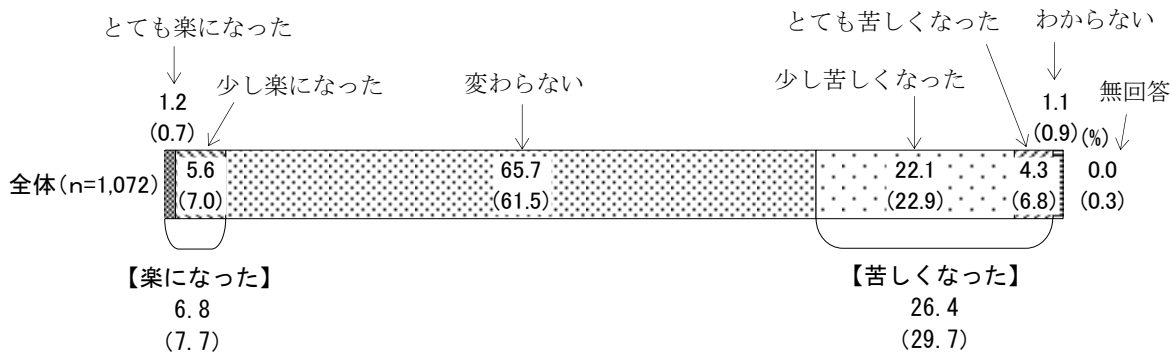
性・年齢別では、18～19歳、20～29歳よりも18～29歳の層の分析を優先する。

2. 暮らし向きの変化

(1) 暮らし向きの変化

－「変わらない」が6割台半ば－

問2 暮らし向きは、昨年のごころに比べて楽になりましたか。それとも苦しくなりましたか。次の中から、一番近いものを1つだけ選んでください。



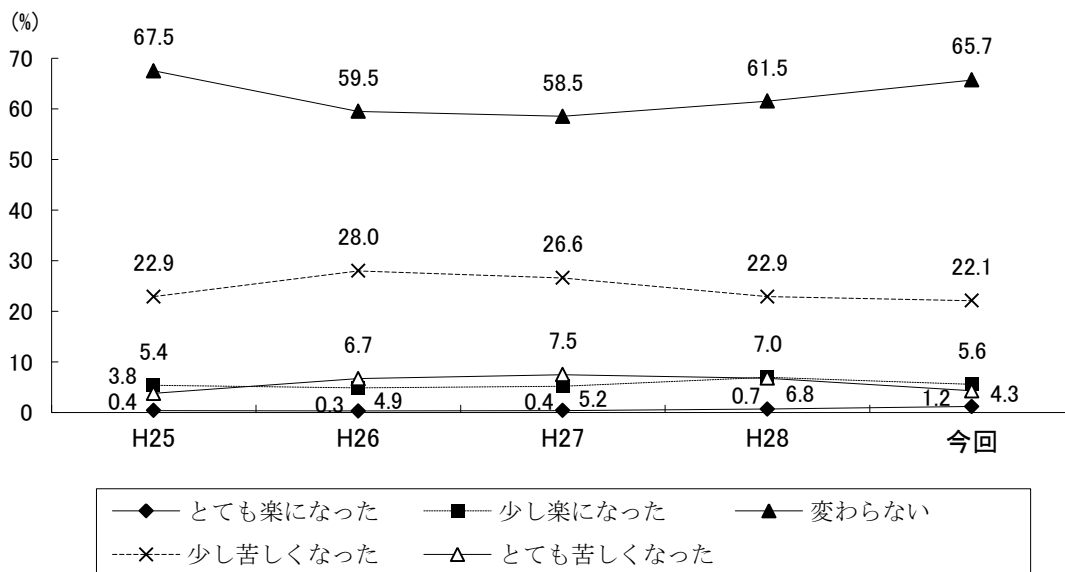
※()内の数値は、平成28年の調査結果

暮らし向きの変化としては、「変わらない」(65.7%)が6割台半ばとなっている。一方、「少し苦しくなった」(22.1%)と「とても苦しくなった」(4.3%)を合わせた【苦しくなった】(26.4%)は2割台半ばとなっている。

－「変わらない」が約4ポイント増加－

前回調査(昨年)と比べると、「変わらない」が約4ポイント増加している。一方、【苦しくなった】が約3ポイント減少している。

図I 2-1 暮らし向きの変化(時系列)



ー県南と鹿行で【苦しくなった】が約3割ー

地域別でみると，【苦しくなった】は，県南（30.3%）と鹿行（29.5%）で約3割と高くなっている。

ー男女の40代と60代で【苦しくなった】が3割超ー

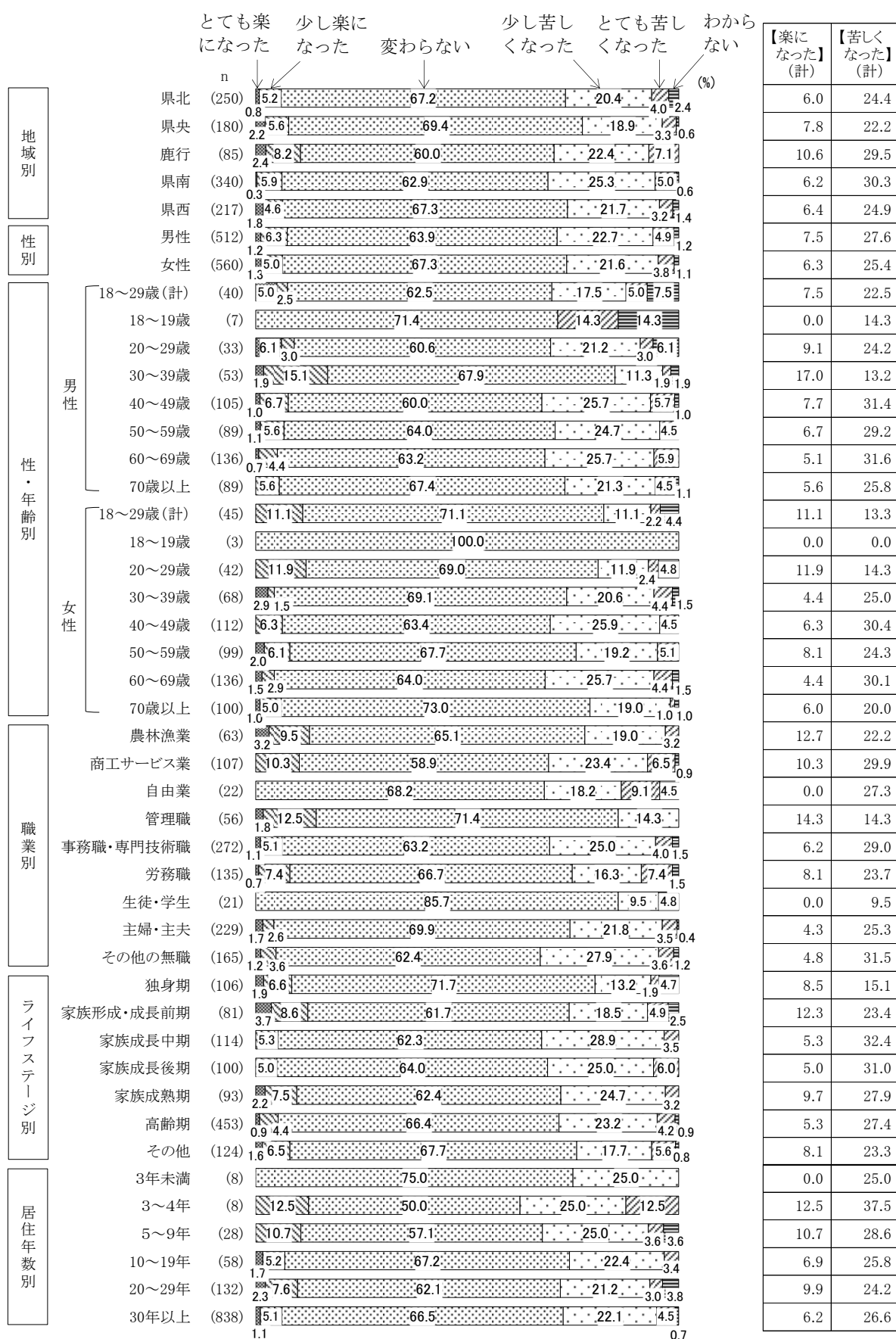
性・年齢別でみると，【苦しくなった】は，男性の40代（31.4%），60代（31.6%），女性の40代（30.4%），60代（30.1%）で3割を超えて高くなっている。

ーその他の無職で【苦しくなった】が3割超ー

職業別でみると，【苦しくなった】は，その他の無職（31.5%）で3割を超えて最も高くなっている。

図 I 2-2 暮らし向きの変化

(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)



(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。

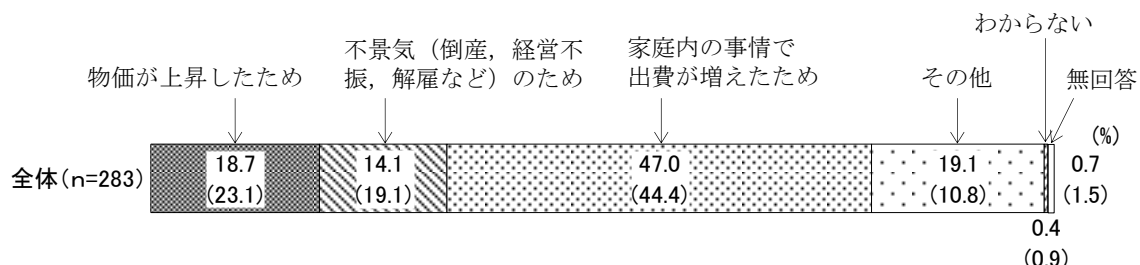
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

(2) 苦しくなった理由

－「家庭内の事情で出費が増えたため」が約5割－

(問2で「4 少し苦しくなった」, 「5 とても苦しくなった」と回答した方のみ)

問2-1 苦しくなったのは、主にどのようなことからですか。次の中から、最も大きな原因を1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成28年の調査結果

暮らし向きが【苦しくなった】と回答した方に、その理由を聞いたところ、「家庭内の事情で出費が増えたため」(47.0%)が約5割と最も高く、次いで、「物価が上昇したため」(18.7%)が約2割で続いている。

－「不景気 (倒産, 経営不振, 解雇など) のため」が5ポイント減少－

前回調査 (昨年) と比べると、「不景気 (倒産, 経営不振, 解雇など) のため」が5ポイント減少している。

－県西で「家庭内の事情で出費が増えたため」が5割台半ば－

地域別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、県西 (53.7%) で5割台半ばと最も高くなっている。

－女性で「家庭内の事情で出費が増えたため」が男性よりも6ポイント高い－

性別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、女性 (50.0%) が男性 (44.0%) よりも6ポイント高くなっている。

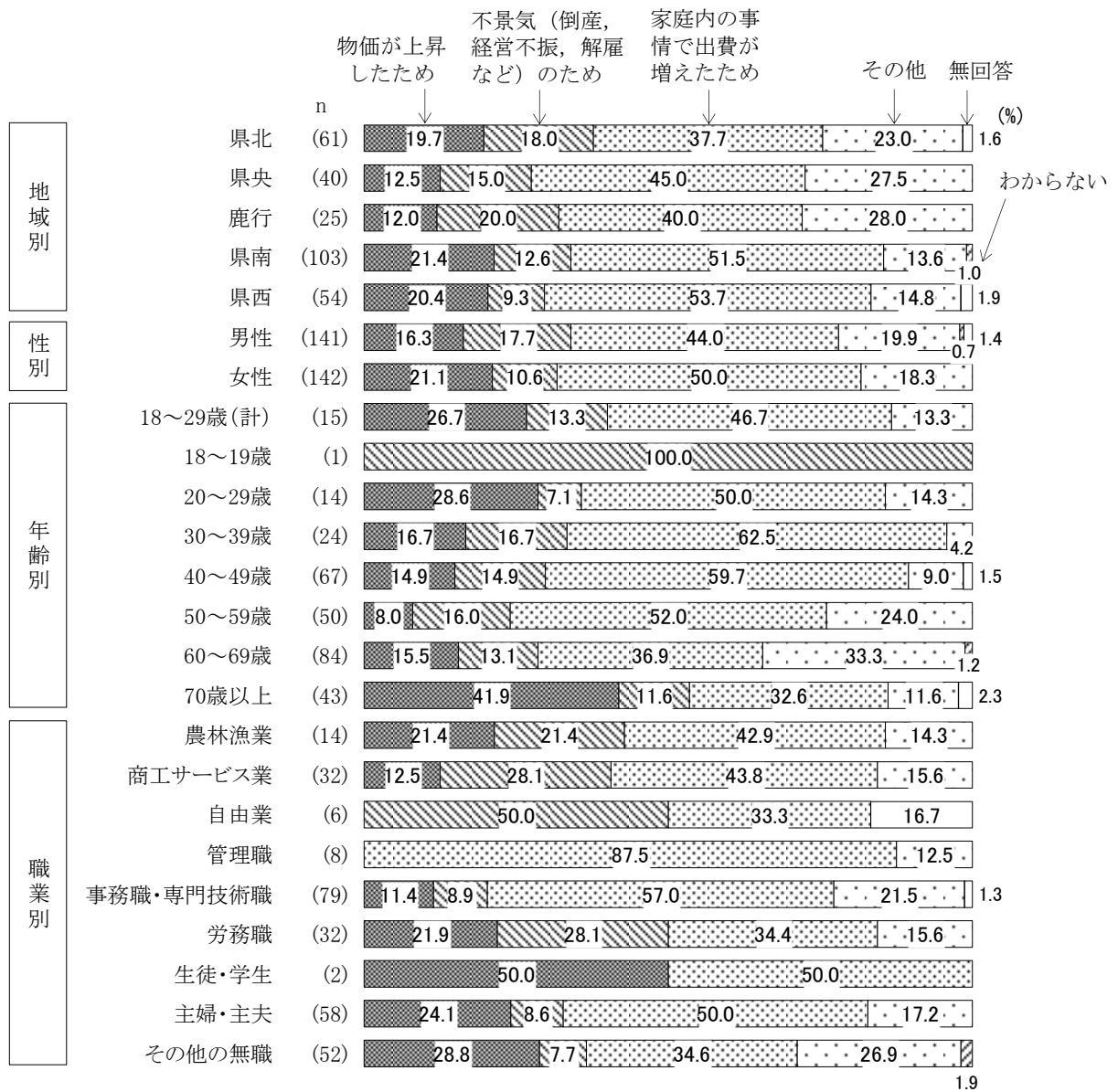
－30代で「家庭内の事情で出費が増えたため」が6割超－

年齢別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、30代 (62.5%) で6割を超えて最も高くなっている。

－70歳以上で「物価が上昇したため」が4割超－

年齢別でみると、「物価が上昇したため」は、70歳以上 (41.9%) で4割を超えて最も高くなっている。

図 I 2-1-1 苦しなくなった理由
(地域別, 性別, 年齢別, 職業別)



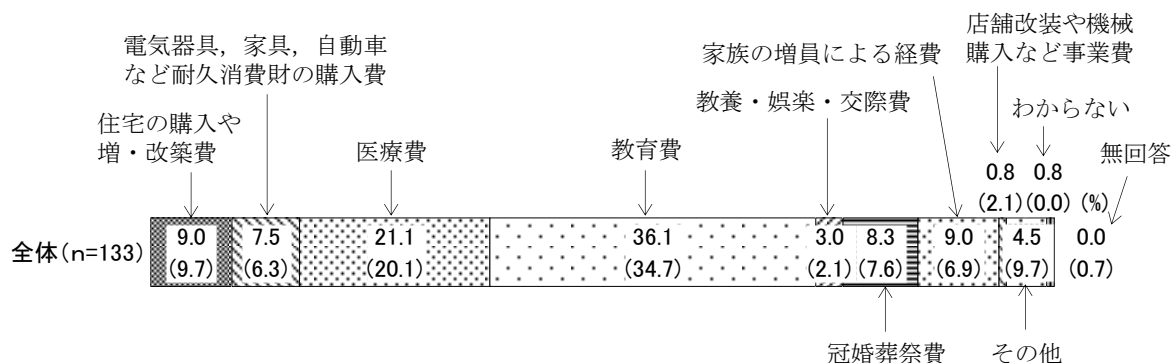
(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。
年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

(3) 増えた経費

－「教育費」が3割台半ば－

(問2-1で「3 家庭内の事情で出費が増えたため」と回答した方のみ)

問2-1-1 家庭内の事情で出費が増えたということですが、どのような経費が最も増えましたか。次の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成28年の調査結果

暮らし向きが【苦しくなった】理由を、「家庭内の事情で出費が増えたため」と回答した方に、増えた経費を聞いたところ、「教育費」(36.1%)が3割台半ばと最も高く、次いで、「医療費」(21.1%)が2割を超えて続いている。

－特に大きな増減はない－

前回調査(昨年)と比べると、特に大きな差はみられない。